

古くから暮らしに密着した生活用品

# 大館の伝統工芸 曲げわっぱ

—その歴史と製造工程をたずねて—

リポーター  
村上 瑠衣  
さん  
(有浦3丁目)



北の片田舎秋田に移封されました。そのころ、領内では冷水害が相次ぎ、領民は貧困に苦しみ家中の生活も同様、その日の糧に困るものさえあるほどでした。

大館城（桂城）代佐竹西家は、領内の豊富な森林資源を利用して、家中の窮乏を打開するため武士たちに命じ、副業として曲げわっぱの製作を奨励しました。その結果、次第に領内はもろろん、他領にも進出して「大館曲げわっぱ」として知られるようになりました。

このような歴史を経て、曲げわっぱはたくさんのひとに守られ、受け継がれてきたのです。

**私**は大館工芸社に行き、工場長の福岡さんに工場内の案内、そして曲げわっぱが作られていく工程を

できないものと思っていました。

**曲**げわっぱの歴史は非常に古く、その起源は、きこりが杉の生木を曲げ、桜皮で縫い止めた「わっぱ（弁当箱）」だとされています。

佐竹義宜侯が、関ヶ原の戦いに豊臣方として惨敗を帰し、水戸より東



①天然秋田杉のすべての部分が、材料として利用できるわけはありません。



②加工しやすいように切った材料の束。



③サンドペーパーで磨きをかけます。



④製品の数だけ「ころ」の型にも種類があります。



⑤煮沸すると固い木も曲がる特性を十分に生かします。